

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年12月28日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4678000193
法人名	有限会社 徳寿苑
事業所名	グループホーム 寿の家
所在地	鹿児島県熊毛郡中種子町牧川1680番地1 (電話) 0997-24-8080
自己評価作成日	平成25年12月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年12月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では職員採用が決まり次第、初任者研修を行い又、その他の職員も定期的に研修に参加している。入所希望者、待機者には併設する有料老人ホームと連携しながら、在宅福祉に当社なりの「小さな福祉の積み重ね」を理念に、ニーズに対して利用や相談に応じている。又、地域においてはコミュニティワークを常に考え利用者が地域の存在として感じてくれるように創意工夫している。夜間の緊急時に対して、緊急時待機職員当番制を取り入れており、夜間の緊急時にも対応できるように取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・地域との関わりは、散歩などの時、畑作業の人達と会話をしたり、地域のゲートボール大会や福祉まつり・文化祭・清掃などに参加している。ホームで行なわれる敬老会や運動会などに家族や地域住民を招待して楽しんでいる。
- ・運営推進会議は2ヶ月毎に行なわれ、家族や行政・地域代表・民生委員等の参加があり、行事の写真を披露したり、施設の状況や利用者の状況報告・外部評価の結果報告を行い、参加者からの意見や提案をもらい、運営に活かしている。
- ・身体拘束をしないケアについて、特に言葉かけなどに注意して職員全員が拘束禁止の意識を研修などで高めている。
- ・災害対策の訓練を年2回実施し、災害時の水や食品などの備蓄がある。発電機もある。
- ・外出希望で、知人に会いにいたり、自宅やロケットの打ち上げなどの見学にも行き喜ばれている。
- ・職員は外部研修に積極的に参加し、資格取得に意欲的に取り組み、レベルアップをめざしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念として「近隣との触れ合いを大切に」を主に掲げ、行事や催し物に参加するための情報収集や、地域の方々が施設に訪れやすい環境づくりをしている。	事業所独自の理念をつくり、近隣との関係を重視して、会う人ごとに挨拶したり、世間話をして親しくなり、地域に密着した生活を意識して日々の業務を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高齢化によって空き家が増えてきているが、避難訓練時に声をかけている。又、運営推進会議にも順次参加していただいている。	校区運動会や敬老会・文化祭等へ、併設の有料老人ホームと合同で参加している。避難訓練等に地域住民の協力を得るなど、日常的に近隣とのふれあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	職員の地元を中心に、近隣の高齢者のいる家庭への声掛けを行うように取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではサービスの状況や、行事での利用者の様子を、写真を交えて報告している。又、利用者全員の現在の状況を報告して、意見や要望を取り入れている。	会議は2ヶ月ごとに開催し、事業所の活動報告や利用者の状況報告・外部評価結果報告等を行っている。参加者からトイレの扉について提案があり、職員で話し合い運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者に、事業所での行事や運営推進会議に参加していただき、事業所の実情や取り組みを見てもらった上で意見を聞き、協力関係を築くように取り組んでいる。	町担当者とは更新申請時等に利用者の状況報告や活動報告をしている。電話で相談も行なっている。福祉の担当者とも密に連絡を取り合っている。ホームの行事や運営推進会議に参加してもらい協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を設け、拘束が必要なケースが生じた時は、職員会議で拘束の必要性などを含め話し合いを持ち、議論している。	身体拘束をしないことを基本に、毎月ケース会議を行い、研修や委員会を通じ意識を高めている。玄関の施錠はせず、いつでも自由に外への出入りができるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議やケース会議、朝礼等で虐待の例を説明し、話し合いの場を持っている。虐待の疑いがあるときは報告するように周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員が順次研修に参加する事で、学ぶ機会を持つようになっている。又、必要に応じて関係機関と話し合い、制度を活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に見学をしてもらった上で不安や疑問を聞きだし、それに対してどのように対応するかの説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関口に意見箱を設置している。又、苦情窓口があり担当者もきめている。外部評価の結果を玄関口の本棚に置いて、自由に観覧出来るようにしている。家族が来所した折には、意見を聞く機会を持つようにしている。	夕食後のくつろいだ時などに利用者から意向を聞いている。家族には「ことぶき便り」を2ヶ月毎に発行して郵送している。面会の時や電話での報告などを活用して、家族からの意見を聞いたりして運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議やなんでもノート又は、普段の会話からも、職員から意見、提案を聞き反映に努めている。	日々の支援の中で、利用者の状況変化や些細な事の気づきを「なんでもノート」に記録したり、毎朝の申し送り時や職員会議等で意見を聞き、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員にやりがいを持たせるべく独自評価基準を設け、給与、待遇面に考慮している。又、職員の個々の生活スタイルに合わせてられるように、勤務希望を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員が研修を受けられるように、研修機会の確保や情報の提供を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の合同研修会に職員が順次参加するように取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、ケアマネージャーと情報交換をして、十分なアセスメントを行い、本人の要望も取り入れる様に話し合い、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が施設に訪れやすい環境を作り、訪問時には話を聞く機会を持つようにして、話の中から潜在的なニーズを聞き取る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の利用者、家族との話し合いを行い、必要であれば介護保険外でのサービス等も説明し、実施している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活する仲間として、残存機能を活かし、家事を手伝ってもらうことでコミュニケーションを図り、関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族と連絡を取り、利用者の近況報告をして、利用者の介護方針について意向を聞き、話し合うことで関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方には気軽に訪問してもらうように伝えている。又、ドライブ等で利用者との関係のある場所に立ち寄るように努めている。	行きつけの理・美容院へ出かけたり、馴染みの知人・友人が訪ねてきたり、要望に応じ墓参りや地域の商店街へ出かけたりして、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アセスメントで知り得た情報の共有と、日常生活からつかんだ利用者の性格を、職員が把握して、利用者同士のコミュニケーションをサポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への移行時は、状況把握のために定期的に訪問している。又、他の施設への入所については情報の共有や経過を聞くことで支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望、意向を聞き出すようにアセスメントを行っている。意思疎通が困難な利用者については、家族から聞き取りを行い対応している。	日々の支援の中で、利用者の思いや意向を伺い職員で話し合い、把握している。本人から聞き取りが困難なときは、家族に聞いたり、馴染みの人や地域住民・職員からの情報を基に意向や思いを把握している。遠方の家族にも随時電話連絡して意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、生活歴やこれまで受けていたサービスの内容を聞き、個々に合わせたサービスが受けられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の状態や心身状況を、ケース会議等を通じて職員全員が把握するようにしている。又、医療機関や家族からも情報を収集して、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族を含めた担当者会議を行い、意向や希望も取り入れて介護計画を作成するように努めている。	利用者や家族から思いを聞き、介護計画を作成している。施設介護経過記録を参考にし、状態変化時などアセスメントやモニタリングで意向や希望を聞き、その都度見直しをして、ケアに取り組んでいる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活リズム表、バイタル表を記録している。又、介護経過記録も個別に記録し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームにて、共用型のデイサービスを要望に応じて行うことで、多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練等の行事を通じて、地域資源の協力を得ることで、利用者の安全と、暮らしを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を受け入れられるように、担当医との話し合いの場を持ち、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診に家族の協力を得ているが、家族が受診に対応できない場合は受診用のノートを持参して担当医に説明している。主治医とも連携を取り、状態変化時は電話で確認している。定期受診も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員の配置はないが、病院受診時に、症状に対しての対応方法を相談して、適切に受診出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の施設での生活状況や、病歴等の情報を交換して、安心して治療出来るように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のケアの方針を家族、担当医も含め話し合いを行い、事業所で出来る事、医療機関で出来る支援を考慮して方針を決めている。	終末期の指針があり、入所時に説明をしている。状態変化時に段階的に家族と話し合い、医療連携をしながら対応している。看取りの事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを職員が観覧出来るようにしている。又、消防署の指導の元で応急救護の訓練も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、防災訓練を消防署の指導のもと行っている。又、災害時に地域の方に協力を得られるように、同意を得ている。</p>	<p>消防署の指導のもと、海が近いので津波や昼・夜間を想定した訓練などの防災訓練を年2回実施している。職員が現場到着時間を実測している。地域住民の協力もあり、スムーズな避難ができています。担当者を決めて緊急時の対応もしています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護の誓約書を、就業時に書面にて作成している。又、職員会議等で言葉かけや対応について話し合いをしている。	入居者の個々のプライバシーを尊重し、言葉使いには職員間でお互いに注意してケアを行っている。行政や保健所等の研修にも参加している。職員で話し合い、布カーテンをアコーディオンカーテンに変えたりして、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で、利用者の思いや希望を聞き取るように努めている。又、本人の意向をサポートとする事で、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康的な生活リズムを壊さない範囲で、一人ひとりの希望を尊重しながら、充実した生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	理美容については本人、家族の希望に合わせ、施設内でも対応している。又、外出される利用者にも対応して支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	郷土料理や季節料理を献立に取り入れる工夫をし、食材の下ごしらえを職員と一緒にしながら料理や材料の説明をして、雰囲気を楽しんでいる。又施設の庭に畑を作り、手入れや収穫を職員とともにやっている。	裏庭の菜園で採れた食材と一緒に調理したり、利用者の希望を聞いたりして献立を立てている。野菜の皮むきや下ごしらえ・後片付けを職員と一緒にやっている。地域住民からの野菜の差し入れも頂いたりして、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や消費カロリーに合わせて食事の量を設定している。又、定期的に体重測定をして設定を変更している。水分補給については個々の好みに合わせて工夫し、水分量はIN、OUTをチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に実施している。又、口腔洗浄剤でうがいをして、口腔内の清潔に努めている。能力に応じて自身で歯磨きを行い、必要に応じて職員が仕上げのケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの記録を元に、失敗しない様に声かけや、誘導をして、自立を支援している。	排泄チェック表を活用し、声かけや誘導でトイレの失敗を軽減している。夜間も含めて、トイレへの誘導を行いオムツを使わないように自立に向けたケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による発熱やイライラを理解し、処方薬と水分量の調節や、食材の工夫で予防している。又、体を動かすレクリエーションや体操を行う事で、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	夏場は毎日入浴出来る体制にしている。冬場は一日置き体制だが、希望に応じて入浴に応じている。又、入浴中は職員とゆっくり会話をすることで、コミュニケーションをとり、楽しんでもらえる様に努めている。	毎日、入浴できる体制があり、希望に沿って入浴支援を行なっている。入浴時は歌を歌ったり、会話をしたり、みかんの皮を使った入浴剤を使用したりして、入浴を楽しむことができる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や年齢、体調に応じて対応している。又、居室の空調、環境を整え安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を何時でも観覧出来るように、薬の保管場所に掲示している。症状の変化については定期の受診時に医師にバイタル表等で伝え、指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味を把握した上で、料理の下ごしらえや洗濯物たたみ、掃除等を行っている。又個々の趣味が楽しめるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の希望を聞き取り、出来るだけ希望に添えるように職員の勤務体制を取っている。	日常的には、買い物や外出の希望に応じて支援している。あじさいやコスモスの花見に出かけたり、ロケット打ち上げを見に行ったり、ドライブして外出支援を行なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員会議の中で所持について話し合いをしている。利用者とお金を持つことの大切さの話をすることはあるが、管理の問題があり、現在利用者本人がお金の所持や使用はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者の希望に応じて、電話をかけるサポートしている。又手紙のやり取りについては文房具を手配したり、字が書けない方については代筆等して支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間の構造や設置器具に配慮し、絵画やレクリエーション、行事等の写真を貼ったり、手作りの飾りなどで親しみの湧く空間作りに努めている。	日当たりのよい共用空間は、明るくゆったりとしたスペースでくつろぐ事ができる。季節感のある花や飾りつけと利用者の作品、施設内や外出の時の楽しそうな写真など壁に貼ってある。居心地よく過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居場所がおよそ決まっており、ソファや椅子、車椅子を個々の体の機能に配慮して配置し、くつろげる様に工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使いなれた家具や日用品を設置している。又、居室に自身や家族の写真を飾ったり、職員と一緒に作った作品を飾る等して工夫している。	自宅で使い慣れた、家具やテレビ・家族の写真・寝具・ぬいぐるみ・趣味の道具等を持ち込み、飾り付けされ、落ち着いた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内のバリアフリーと全廊下の手すりを設置し、自立歩行の安全を確保している。又、廊下も広さも確保されており、車椅子や歩行器での移動も行きやすいようになっている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない